

国立病院機構熊本医療センター

2013 No.187



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519

謹賀新年

新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター

院長 河野 文夫



明けましておめでとうございます。旧年中は、多方面にわたりご指導、ご支援を賜りまして誠に有り難うございました。職員一同厚く御礼申し上げます。

昨年は、東日本大震災の傷跡もまだ癒えず、隣国との外交関係の悪化より貿易が低調となり、日本経済が一層冷え込みました。しかし、一方で、山中伸弥教授が、iPS細胞の発見によりノーベル生理学・医学賞を受賞され、あらためて日本の科学技術のすばらしさを世界に発信しました。技術立国日本の今後の方向性を示していただいたように思います。今年が我が国にとりまして素晴らしい年になることを希望しているところです。

当院では、昨年4月に私が池井前院長を継承し、新執行部の協力を得て無事年を越すことができました。この間、9月には“365日24時間、断らない救急医療の実践”にたいして、救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けました。また、5年ぶりに電子カルテシステムの更新を10月22日に行い、併せて外来の患者呼び出し番号掲示板並びに自動支払機の設置を行うなど患者サービスの向上に勤めました。

本年は、年末に受審する予定の病院機能評価に向けて職員一丸となって取り組みます。病院機能評価を受審することにより、当院の基本理念であります“良質で安全な医療”を一層確かなものにしていきたいと思っております。また、現在の教育研修棟及び旧研修センター（売店、レストラン）を撤去し新外来棟の設計に着手します。新外来棟には、教育研修宿泊施設、研修セミナー室のほか、外来部門を大幅に拡充し、レストラン・売店の大型化、喫茶室の入店、災害のための備蓄倉庫、自家発電機の設置などを考えております。

本年が、先生方にとりまして実り多い1年となりますことをご祈念申し上げますとともに、本年もよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年元旦



「開業医の心強い味方」

牧野けんじ皮ふ科医院
理事長 牧野 健司



南千反畑町に牧野けんじ皮ふ科医院を開業して早二十余年が過ぎましたが、平成十六年に現在の中央区北千反畑町に移転致しました。

開業当初より、国立病院機構熊本医療センター（当時は国立熊本病院でした）の先生方にはお世話になるばかりで、何のご恩返しもできぬまま年を重ねております。

特に皮膚科に関しては、長らく皮膚科医長をお勤

めになり、現在は開業しておられます前川嘉洋先生には本当にお世話になりました。その後、皮膚科医長の先生方はお代りになりましたが、現在は、患息が皮膚科に勤務させて頂いており、親子共々、国立病院機構熊本医療センターへのご縁に感謝致しております。

さらには私の専門の皮膚科以外にも、多数の科の先生方にいつもお世話になっております。

つい先日も、連休前の土曜日に、麻疹様の皮疹がほぼ全身にあり、ウイルス性の発疹症あるいは中毒疹の疑いのある患者さんを電話でご相談致しました。お忙しい中にもかかわらず「救急外来」で快く引き受けていただき、大変ありがたく思いました。

連休の前などに限って外来でのフォローに心配のある患者さんがお見えになることがあり、どう対処すべきか悩むことがあります。このような時に、国立病院機構熊本医療センターは快くバックアップして下さいます。頭の下がる思いであり、開業医には本当に心強い味方です。

今後はいろいろとお世話になるばかりではなく、少しでもお力になれることがあれば、微力ながらお手伝いさせて頂ければと思っております。

国立病院機構熊本医療センターの今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

平成24年度 第2回開放型病院運営協議会が開催されました

平成24年度第2回目の国立病院機構熊本医療センター開放型運営協議会が平成24年12月10日に当センター会議室で開催されました。協議会には委員として熊本市医師会より医師会長の福島敬祐先生、副会長の加来裕先生、担当理事の田中英一先生、家村昭日朗先生にご出席いただき、当院より河野院長、野村副院長、高橋副院長、片淵統括診療部長が出席いたしました。福島委員長により議事進行が行われ、事務局より開放型病院利用状況、平成24年度第1回開放型病院連絡会（平成24年9月4日）の開催状況、「くまびょうニュース」の発行状況について報告が行われました。続いて平成24年度第2回（通算35回）開放型病院連絡会の開催について協議が行われ、平成25年2月16日（土曜）午後6時30分より当センター2階地域医療研修センターで開催することが決定いたしました。連絡会総会では、

症例呈示と病院からのお知らせ等を行い、特別講演には、厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官の佐々木孝治先生をお願いすることになりました。多数の先生方、スタッフの皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。（副院長 野村 一俊）



熊本市医師会長 福島 敬祐先生のご挨拶

外来紹介

外科・整形外科



19番受付
外来クラークと
看護師



一般外科では、消化管、肝胆膵の癌などの消化器疾患を中心に、肺、甲状腺や乳腺疾患、下肢静脈瘤、ヘルニアなども含めた広い領域での診療を行っています。

当院の特徴として、断らない救急医療を提供しており、多くの救急症例にも対応しています。

手術の傷を小さくして、患者さまの負担を少なくするための鏡視下手術を、適応症例に対して積極的に導入し行っています。胸腔鏡手術及び腹腔鏡手術ともに経験ある医師が中心となり、安全性確保につとめています。

当科では、患者さまのQOLを常に念頭に置き、患者さまの状態に応じて、手術、内視鏡治療、化学療法（抗がん剤治療）、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。

医療スタッフは、患者さまとご家族に優しい医療を心がけ、がんの治療と並行して、さまざまなたらさと苦痛を和らげる、緩和ケアにも力をそそいでいます。

これからも、最善のチーム医療でホスピタリティの精神をもって、患者さまへ安全で安心な医療を提供してまいります。
(外科外来看護師 松野 貴子)



外来診察中の片淵医師(左)、芳賀医師(右)



外科外来スタッフ



診察中の中馬医師

野村医師
(外来診察室にて)



処置中の前田医師



整形外科外来スタッフ

整形外科は脊椎外科・関節外科・外傷外科の手術療法を中心に診療を行っております。

救急症例の増加と共に、骨折患者が急増し、救急外来との連携も必須となっています。

整形外科手術件数の約半数を骨折が占め、その他膝疾患、脊椎疾患、股関節疾患、肩関節疾患等となっており、術後リハビリを要する多くの症例は、リハビリ施設への転院治療をお願いし連携医療に努めています。

外来では、関節穿刺・関節注射・ギブス処置、装具の作製等を行い、手術予定の患者様は入院日数短縮のために外来にて術前検査を行い、手術前日の入院を案内しております。局所麻酔で可能な症例については、外来での日帰り手術も行っております。野村副院長先生をはじめ、整形外科医6名、医療秘書2名、と共に診療にあたっており、配属看護師は1名の為、病棟からの協力で外来患者様に安全で質の高い看護を目指し診療介助を行っております。どうぞよろしくお願ひします。

(整形外科外来看護師 緒方 秀子)

2013
診療科紹介 (56)
腎臓内科



部長
富田 正郎
各種血液浄化・急性腎不全
慢性腎臓病（CKD）

日本内科学会指導医
日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本高血圧学会指導医
熊本大学医学部臨床教授



医師
梶原 健吾
腎臓内科（血尿・蛋白尿・腎炎・
ネフローゼ・腎不全・慢性腎臓病
（CKD））

日本内科学会認定医・指導医
日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医
日本高血圧学会指導医



医師
坂梨 綾
腎臓内科（血尿・蛋白尿・腎炎・
ネフローゼ・腎不全・慢性腎臓病
（CKD））
血液浄化・シャント管理・腹膜透析
日本内科学会認定内科医



医師
中川 輝政
腎臓内科・血液浄化
腹膜透析・シャント管理
日本内科学会認定内科医

エンドトキシン吸着	27回
白血球除去療法	6回
顆粒球除去療法	20回
単純血しょう交換	10回
二重濾過血しょう交換	7回
活性炭吸着	4回
C型肝炎ウイルス除去	20回

【手術件数】 174例

透析用シャント作成術、同結紮術、上腕動脈表
在化、CAPDカテーテル挿入術、同除去術、同
出口部変更術、同出口部作成術含む

【血液造影件数】 157例

【腎生検】 33例

診療内容と特色

当院が精神神経科を含めたすべての診療科を備えている救急病院のため、あらゆる合併症を持つ透析患者の急患を常時受け入れています。緊急を要する症例についてはオンコール制をとっており、緊急透析業務は365日、24時間体制で対応しております。急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎症候群、急性腎不全、保存期慢性腎不全に対しても迅速な対応が可能です。腎生検検査も原則として3日間入院のみで検査可能です。

日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会の認定施設。

診療実績

平成23年度

【透析】

血液透析	5,166件
新規導入透析患者数	85名
急性腎不全透析患者数	19名

【その他の血液浄化】

持続的血液濾過透析（CHDF）	197回
-----------------	------

研究実績

CKDステージ4（G4）の症例の尿酸値を積極的に下げべきか否かを現在無作為割付前向き研究しております。

今後の目標

新病院では透析病床は大幅に増床（10床→20床）され、CAPD室も確保され、一層の機能充実が図られております。腎臓病を通じて熊本地区の地域医療にさらに貢献してゆきたいと存じます。CKD（慢性腎臓病）対策においても専門医の立場から積極的に取り組み、透析導入になる患者様が1人でも減るように努力して参ります。また、腹膜透析にも力を入れ、「PDファースト」という、最も長命が期待できる治療戦略を取り入れております。すなわち、透析が必要な状態になった場合に、初めから血液透析を行うのではなくて、腹膜透析を先に行った後5年経過したら血液透析にスイッチする、という方法で、御自身の残腎機能が減りにくい（つまり、透析になっても尿量が減りにくい）という特徴があります。

第18回 国立病院機構熊本医療センター医学会開催のご案内

医療従事者であれば、どなたでもご参加できます。皆様のお越しをお待ちしております。

平成25年 1月19日 (土)

開会の辞

河野 文夫 (国立病院機構熊本医療センター院長)

8:50~9:00

一般演題Ⅰ「内科系」

座長：村尾 哲哉 (国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長)

9:00~10:00

酒谷 紀子 (国立病院機構熊本医療センター看護師長)

I-1 アルコールが原因と考えられた低血糖の一例

糖尿病・内分泌内科 内原智幸 橋本章子 信岡謙太郎 豊永哲至 東輝一朗

I-2 脳卒中における急性期病院間の医療連携—Drip & Ship方式—

神経内科 小阪崇幸 米持康寛 幸崎弥之助 田北智裕 俵 哲
熊本大学医学部附属病院神経内科 中西俊人 渡邊聖樹 安東由喜雄

I-3 過去5年間の魚骨誤飲症例21例の検討

消化器内科 矢野ともみ 尾上公浩 古閑睦夫 田島知明 小林起秋 村尾哲哉
中田成紀 杉 和洋

I-4 高齢女性に発症した急性発症自己免疫性肝炎の一例

消化器内科 村尾哲哉

I-5 腎生検蛍光抗体法でC1q陽性の血尿・蛋白尿を呈する56歳男性の1例

腎臓内科 松永愛子 中川輝政 坂梨 綾 梶原健吾 富田正郎
熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科 井上秀樹
仁誠会クリニック光の森 江田幸政

I-6 ヘリ搬送により救命できたST上昇型急性心筋梗塞の2例

循環器内科 石田俊史 藤本和輝 宮尾雄治 古賀英信 本多 剛 石井正将

一般演題Ⅱ「外科系」

座長：近藤 晶子 (国立病院機構熊本医療センター眼科部長)

10:05~11:05

田中富美子 (国立病院機構熊本医療センター地域医療連携係長)

II-1 腸管損傷を来した胃瘻トラブルの2例

外科 久木山直貴 木下浩一 山口 充 富口麻衣 泉 大輔 富樫陽彦
森田圭介 松本克孝 多森靖洋 宮成信友 芳賀克夫 片渕 茂

II-2 急性期に自然退縮するAcute Subdural Hematomaの検討

脳神経外科 藤本健二 吉里公夫 大塚忠弘

II-3 大腿骨転子部骨折治療後のラグスクリュー挿入角度のレントゲン評価方法について

整形外科 福田雅俊 福元哲也 松下任彦 中馬東彦 前田 智 橋本伸朗
野村一俊

II-4 国立病院機構平成18年度EBM研究

「重症褥瘡（Ⅲ度以上）に対する局所治療・ケアの適切性に関する研究」の結果報告

形成外科 大島秀男 東野哲志 万江由希子

東京大学大学院医学系研究科健康科学 長瀬 敬¹ 真田弘美²

看護学専攻老年看護学¹ 特任講師² 教授

II-5 ゾレドロネート投与予定患者の口腔内スクリーニング検査の現状

—当科におけるBP製剤関連顎骨壊死予防への取り組み—

歯科口腔外科 田中翔子 上田大介 豊部大輔 河野通直 片岡奈々美 中島 健

II-6 電子“麻酔カルテシステム”が医療の質に及ぼす影響について

麻酔科 瀧賢一郎 古庄千代 宮崎直樹 小林加織 諸家直子 江崎公明

同科 非常勤 笹岡由香里 前田亜佐子 小寺厚志

一般演題Ⅲ 「事務・コメディカル」 座長：織田 政継（国立病院機構熊本医療センター経営企画室長）

11：10～12：10

香月 耕多（国立病院機構熊本医療センター主任臨床検査技師）

III-1 下水道料金の計算方法を知っていますか？—下水道メーター設置による料金削減効果の検証—

事務部企画課契約係 吉岡幸宏 末次剛輝 白川 大 松永彩香 佐藤孝一

III-2 MSW病棟担当制の取り組み

地域医療連携室 中村珠莉 西迫はづき 木下良子 荒木陽子 三浦由江 田中富美子

III-3 当院における肺動静脈分離撮影プロトコルの検討

画像診断センター診療放射科 泉 登久 北口貴教 森田伸二 山本静成

III-4 救急搬送された患者で抗Rh29を保有していた症例

臨床検査科 下川里美 林 秀幸 永田雅博 橋本龍之 鶴田敏久

III-5 当院におけるLBC法導入の試みと各種材料での細胞像の比較

臨床検査科 船瀬将一 染矢賢俊 中島一樹

病理診断科 成毛有紀 村山寿彦

III-6 当院における持続緩除式血液濾過器の選択の検討

臨床工学技士 佐藤朋哉 竹本勇介 川内 直

腎臓内科 富田正郎

昼 食（12：10～13：10）

一般演題Ⅳ 「看護・薬剤」 座長：真鍋 健一（国立病院機構熊本医療センター薬剤科長）

13：10～14：20

徳永 雄規（国立病院機構熊本医療センター医療安全管理係長）

IV-1 救命救急センターにおける経腸栄養と下痢の関連性

看護部救命救急センター 森山由佳利 緒方早織 大澤美香 落合ひろみ 森田 恵

IV-2 婦人科手術における術中保温の取り組み～碎石位用アンダーブランケットの使用を試みて～

看護部手術室 上田亜美 西祐紀乃 清田喜代美

IV-3 心筋梗塞患者への集団指導の有効性

看護部 6北病棟 川原由依 松本将太 川上涼香 木下宜子 浜崎美紀子 城 雪子

IV-4 A病院に勤務する看護師の職務満足度の実態

看護部 清田峰子 有馬京子 森田恵 高尾珠江 福本佐百合 山口チハル
猿渡恵美子 石橋富貴子 石橋 薫

IV-5 看護学校と臨床のユニフィケーションによる看護観カンファレンスの効果

付属看護学校 石原史絵 竹下弘子 岸田佐智子
看護部 7東病棟 渡邊香織

IV-6 簡易懸濁法の適合性に関する検討及び運営の現状

薬剤科 藤野 祥 橋本崇広 永野真久 高田正温 井上大奨 平木洋一
真鍋健一

IV-7 iPadを利用したCRC業務効率化の検討

治験センター 山下克也 林淳一郎 奥山由佳子 市下由美 吉井 薫 宮本美穂
正代敦子

一般演題V 「救急・その他I」

座長：廣田 昌彦（熊本市医師会地域医療センター院長）

14：25～15：15

松本 深雪（国立病院機構熊本医療センター看護師長）

V-1 特発性脊髄腔内出血により四肢麻痺を来した一例

救命救急部 鬼塚悠里 江良 正 狩野亘平 山田 周 北田真己 櫻井聖大
原田正公 木村文彦 高橋 毅

V-2 レンサ球菌性トキシックショック症候群を来した一例

小児科 持永将恵 山田崇裕 日高優子 森永信吾 高木一孝

V-3 救急外来受診記録からみた自殺既遂症例の臨床的特徴（当院における2009年・2010年調査）

精神科 吉田庸子 橋本 聡 宮川雄介 松田倫子 小田篤介 山下建昭
渡邊健次郎
救急科 江良 正 狩野亘平 山田 周 北田真己 櫻井聖大 橋本 聡
橋本章子 原田正公 高橋 毅

V-4 リンパ管型スポロトリコーシスの1例

皮膚科 牧野公治 緒方亜紀 中村香代 工藤恵理奈
臨床検査科 香月耕多

V-5 子宮留膿腫穿孔による汎発性腹膜炎の4症例の検討

産婦人科 西村 弘 高木みか 永井隆司 三森寛幸

V-6 当院における廃用症候群の現状

リハビリテーション科 西崎武文 坂本浩樹 村上寿一 榮 彩人 田所広太 和田真美
西山真倫子

一般演題VI「救急・その他II」 座長：米満 弘一郎（熊本機能病院理事長）

15：20～16：10

田代 博崇（国立病院機構熊本医療センター主任臨床工学技師）

VI-1 肺動脈血栓症により播種性血管内凝固症候群をきたした一例

血液内科	本郷貴大	日高道弘	井上佳子	清川哲志	河野文夫
心臓血管外科	岡本 実				
まつばせ児嶋クリニック	児嶋真治				

VI-2 ボイスプロテアーゼの使用経験

耳鼻咽喉科 上村尚樹

VI-3 精神疾患を有する患者の両眼自傷の2例

眼科	平島みほ	筒井順一郎	近藤晶子
熊本赤十字病院眼科	青木浩則		

VI-4 CTで診断に至った尿管坐骨ヘルニアの一例

放射線科	柏木 寧	岩下孝弥	徳永郁香	根岸孝典	富高悦司	伊藤加奈子
	浅尾千秋	吉松俊治				

VI-5 尿道留置カテーテル尿管内迷入の2例

泌尿器科	山本泰弘	脊川卓也	岩下仁	瀬下博志	陣内良映	土岐直隆
	菊川浩明					

VI-6 NIS遺伝子異常症（ヨード濃縮障害）患者における母乳中のヨード濃度を測定しえた一例

田尻クリニック	深田修司	中武伸元	田尻淳一
上天草総合病院産婦人科	黒田くみ子		

総評・閉会の辞

野村 一俊（国立病院機構熊本医療センター副院長）

16：10～ 16：20

第5回 肝疾患地域連携を深める会

この度、第5回肝疾患地域連携を深める会を下記の要綱にて開催したいと存じます。
何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

【一般講演】 座長：新町いえむらクリニック 院長 家村 昭日朗 先生
「当院における急性型自己免疫性肝炎」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科 前田 詠理
「侮りがたし、脂肪肝－NASH・NAFLDの臨床」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋

【特別講演】 座長：国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋
「B型およびC型肝炎の病態と治療の進歩」
久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門 講師 井出 達也 先生

日 時：平成25年2月14日（木）19：00～20：45

場 所：ホテルニューオータニ熊本 2F『おしどり』

〒860-0047 熊本市西区春日1-13-1 TEL 096-326-1111

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋 TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

国立病院機構 専修医海外留学プログラムに参加しました

10月から約2ヶ月間、国立病院機構専修医海外留学プログラムにてロサンゼルスで研修させて頂きました。NHOと米国退役軍人健康省との提携により米国にて実際の臨床現場を見学することができるプログラムで、今回私はVeterans Health Administration Greater Los Angeles Healthcare System (VA) の他、UCLA、USC Keck Medical Center、Los Angeles County Medical Center (LAC+USC) で一般外科、胸部外科、救急・外傷外科、感染症科を見学させて頂きました。米国の外科の朝は非常に早く、学生や研修医は5時台に、レジデントも6時には来てカンファレンスや回診を行い、7時半には手術室に入室します。その分6～7時くらいには帰宅して勉強したり趣味をしたりすることができ、時間を有効に使っているイメージでした。学生や研修医の意識は高く、常にEBMを意識



した診療に関する知識をアップデートしていて、恥ずかしながら私も分からないような質問にどんどん答えていました。また腫瘍外科の手術を見学していて日本の腫瘍外科のレベルの高さを感じると共に、Level 1 Trauma CenterであるLAC+USCの救急外来・手術室を見学して、救急・外傷に関するシステム、Decision Makingや手術ではまだまだ日本は後進国であるという認識に至りました。バックグラウンドや医療システムが違うので、これはいい!と思ったことをそのまま日本に適用することはできないと思いますが、異国の医療を目の当たりにし、自分の視野を広げることができたと思います。今後の自らの診療の糧としつつ、病院に還元していきたいです。不在中はたくさんの先生方やスタッフのみなさんに御迷惑をおかけしました。このような機会を与えて頂き本当にありがとうございました。(外科 泉 大輔)



USC外科の先生方と歓送迎会

二の丸がんサロン企画 トーンチャイム♪クリスマスコンサートを開催しました

「多くの患者さんへ癒しの時間を提供したい。患者さん同士の分かち合いや癒しの場としてのがんサロンのことも知ってもらいたい」とのがんサロン参加者からの一声より、12月7日(金)二の丸がんサロンにおいてボランティアさんによるトーンチャイムクリスマスコンサートが開催されました。

トーンチャイムはアメリカで作られたリハビリ用の楽器で癒し系の優しい音色が奏でられます。

演奏ボランティアでお越し頂いた「美齡重(ミレージュ)」様は10年前から病院や施設など多岐にわたって演奏ボランティア活動をされており、多くの方々へ心に響く演奏を提供されています。今回はたくさんのクリスマスソングを演奏していただき、合間には参加者の方に楽器を触れてもらったり、演奏に合わせて歌ったりなど盛りだくさんのプログラムでした。参加者の方からも「治療がつかったけど、演奏を聴いて元気が出た」「きれいな音で心に響いた」などの感想をいただきました。

二の丸がんサロンは開設から1年9ヶ月経ち、交流会を中心にこのように患者さん・患者ご家族の方々の癒しの場・交流の場として月1回第1金曜日に開催されています。多数の方のご参加をお待ちしております。

(医療ソーシャルワーカー 西迫はづき)



美齡重の方々の演奏の様子



南カリフォルニア大学病院副院長 ジェフリー・ヘーゲン先生の研修を終えて

12月4日～7日の4日間、南カリフォルニア大学病院副院長、ジェフリー・ヘーゲン先生を熊本にお迎えし、様々な研修会が行われました。私たち研修医は、英語での症例発表、回診でのプレゼンテーション、腸管吻合、交流会と非常に内容の濃く勉強になる4日間を過ごすことができました。私は、腹部外傷の中でも非常に珍しい「腹部鈍的外傷による胆嚢単独損傷」の症例を発表させていただきました。ヘーゲン先生はアメリカでは銃創による胆嚢損傷は経験したことがあるが、鈍的外傷による胆嚢単独損傷は非常にまれであるとおっしゃっていました。アメリカと日本の環境の違いを改めて感じた瞬間でした。また、アメリカでの外傷初期診療の歴史や手術ロボットであるダヴィンチ

についての講義も非常に興味深いものでした。日本の医療だけでなく、世界の医療に目を向ける医師になれるよう、これから日々励んでいきたいと思えます。

(1年次研修医 本郷 貴大)



ヘーゲン先生との記念撮影

研修医レポート

臨床研修医

1年次 ^{まえだ}前田 ^{えり}詠理



こんにちは、1年次研修医の前田詠理と申します。4月より研修が始まり、はや8カ月が経ちました。私は呼吸器内科、救命救急部、消化器内科、外科をそれぞれ2カ月ずつローテートし、11月末より循環器内科を回ります。研修医になって半年間、自分の至らない部分に気づかされ反省の毎日ですが、それでも半年前と比べて変わったのではないかと感じることもあります。普段は回っている科のDutyをこなしているだけで気が付いたら1日が終わっていることもあります。例えば救急外来での当直時、患者さんを診て自分で検査を考え方針を考えるのは、半年前よりスムーズになっ

たのではないかと思います。最初の頃は患者さんやご家族とお話することにも緊張したり、診たことのない疾患をどういった流れで対応していくのかも分かりませんでした。そういったとき、もちろん夜勤が一緒に指導医の先生方や看護師さん方にも教わりましたが、やはり一番身近で頼りになったのは2年次研修医の先生方でした。1年間の経験がこうも違うのかと（それだけではないでしょうけれど）思うほどしっかりと医師として診療されており、自分の対応の反省と励みになっています。また、救急外来で出会った疾患を後でゆっくりフィードバックし、「あーしまった」と反省することも大切なことです。ともすれば日々の診療科の勉強だけで手いっぱいになってしまいがちですので、救急外来は自分の勉強のモチベーションをあげる意味でも大変勉強になります。

これから回る循環器内科でも手技や薬剤など分からないことだらけで、楽しみと同時に大きな不安もあります。研修期間中に、医師としての土台が築けるよう日々勉強していきますので、今後ともご指導よろしく願いいたします。

研修のご案内

第136回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
 [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成25年1月17日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「血中TG高値（2000mg/dl）および肥満を伴った2型糖尿病の一例」
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
 久木山直貴、内原智幸、信岡謙太郎、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
2. 「意識障害で救急搬送され、著名な低血糖（<4mg/dl）および乳酸アシドーシス指摘された糖尿病治療薬が投与されていない一例」
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
 内原智幸、久木山直貴、信岡謙太郎、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第168回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年1月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
 2. 持ち込み症例の検討
 3. 症例検討「血栓症による慢性DIC」 国立病院機構熊本医療センター血液内科 本郷 貴大
 4. ミニレクチャー「CKDと尿酸」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 梶原 健吾
- 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第109回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年1月23日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『前立腺癌治療中の呼吸困難』（70歳代 男性）
 臨床担当）国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科 山根 宏美
 病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山 寿彦
 「前立腺癌の骨転移のある男性で薬剤治療と放射線治療を行っていた。咳漱、労作時呼吸困難と胸部異常陰影にて紹介入院となった。」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第28回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成25年1月26日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：悠紀会病院院長 紫藤 忠博 先生

演題：「敗血症とDIC」

1. 敗血症の病態と治療について 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 原田 正公
2. 敗血症DICの病態と治療について 国立病院機構熊本医療センター救急科 櫻井 聖大
3. 症例呈示 国立病院機構熊本医療センター救急科 山田 周
4. 今後の敗血症治療薬の開発状況について 国立病院機構熊本医療センター救急科 北田 真己

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

2013年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研修室	その他
4日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
7日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
8日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00～21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
9日(水)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
10日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「皮膚の危機管理」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野 公治		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
11日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
12日(土)		16:00～18:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)	
15日(火)	19:30～20:30 第26回 熊本県食・嚥下リハビリテーションセミナー 「嚥下障害の歯科的治療」 くまもと温石病院歯科部長 川上 剛司		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
16日(水)	13:00～17:15 平成24年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第1日目)		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
17日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「病理から臨床へのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター病理診断科医長 村山 寿彦 9:00～17:15 平成24年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第2日目)	19:00～20:45 第136回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
18日(金)	9:00～17:15 平成24年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第3日目)	15:30～16:45 臓器病教室(研2) 「肝がんについて」	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
19日(土)	8:30～17:30 第18回 国立病院機構熊本医療センター医学会 19:00～20:30 第168回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
21日(月)		19:00～21:00 小児科火曜会(研1)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
22日(火)	18:30～20:30 血液研究班月例会		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
23日(水)	19:00～20:30 第109回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
24日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「DIC治療の実際」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田奈穂子 18:30～20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
25日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
26日(土)	9:00～12:00 楽しく学ぶ基礎看護研修 15:00～17:30 第28回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 悠紀会病院院長 紫藤 忠博 「敗血症とDIC」 1. 敗血症の病態と治療について 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 原田 正公 2. 敗血症性DICの病態と治療について 国立病院機構熊本医療センター救急科 櫻井 聖大 3. 症例呈示 国立病院機構熊本医療センター救急科 山田 周 4. 今後の敗血症治療薬の開発状況について 国立病院機構熊本医療センター救急科 北田 真己		
28日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
29日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
30日(水)	18:00～19:30 第78回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
31日(木)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2

研1～3 2階研修室1～3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室
※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)